

## ODA政策協議会 2012年度の振り返り

2013年6月10日

NGO・外務省定期協議会

ODA政策協議会コーディネーター一同

### 2011年度報告で挙げられた課題「今後の改善へ向けて」

- ① NGO側コーディネーターのイニシアティブにより、一度扱った議題のフォローアップを行ない、必要な場合は適切な論点整理を行ないつつ、継続した議論を行なえるようにする。
- ② 副大臣、大臣政務官など政務三役の出席やサブ・グループの運用など、当協議会に期待される位置づけや役割について、これらを十分に活用するための模索を行なう。
- ③ さらに開かれた政策対話の場を実現するために、だれにでも分かりやすい運営や議事進行のあり方、地域開催の充実、ITを活用した中継や参加のあり方などを検討する。

### 2012年度の成果

#### 【①について】

- ・国際的に重要な援助動向については、極力継続協議または報告という形で、情報共有と協議の継続性を図った。その例として、ポスト MDG およびリオ+20、援助効果及びそれに関連して ODA のアンタイド化、2011年度議題の継続としてのアフガニスタンに関する東京会合などがある。また、個別課題を入口に ODA・開発援助全体の課題を掘り下げた、農薬練り込み蚊帳(オリセツ)の問題なども継続議題として取り扱った。

#### 【①および②について】

- ・2010年度に外務省が策定した「ODA の見える化」方針に関し、2011年度に続きその具体化の進捗報告として「ODA 過去案件共同レビュー」が2度にわたって議題に取り上げられ、2013年度からのタスクフォースの発足にいたった。

#### 【②について】

- ・第1回政策協議会に山根隆治副大臣、第2回政策協議会に榛秦加津也副大臣の出席があり、限られた時間ではあったが議論の共有がなされるとともに、当協議会の地位の向上と成果の実質化に貢献した。
- ・個別の 이슈に関して議論を深めるためのサブ・グループの活用により一定の成果があった。例として第2回定期協議の協議事項である「モザンビーク ProSAVANA 事業」について、意見交換会が計4回開催された(1月25日、3月5日、4月19日、5月10日。第5回は6月上旬開催で調整中)。NGO・外務省間の立場に隔たりがある個別案件において、問題解決に向けた政策対話が積み重ねられた事例である。

### 【③について】

- ・2011年度は見送られた地域開催が、第3回政策協議会として札幌で実現した。日頃、政策対話に参加する機会が少ない地域の NGO からは、開発や国際協力の根本的な理念を問う議題が出された。一方、地域性や当事者性に根ざした視点や論点も多数提示され、NGO・外務省双方の気づきも多かった。
- ・地域開催での経験を通じ、国際協力の重要な政策課題について、日頃から、単なる広報に留まらない対話型・双方向の情報提供が必要であり、「誰にでも分かりやすい」説明と議論の仕方に努めることが重要であることが認識された。
- ・地域開催の意義として、最新の政策 이슈 を追求する東京での議論とは趣を変え、開発や国際協力の本質を考える議論を落ち着いて行えること、地域に住まうものとしての視点から、開発の最終裨益者である現地住民に寄り添った視点、論点が提示されること、これらの貴重な成果を政策過程に取り込む機会になりえることが、改めて認識された。

### 2013年度に向けての課題

- ・外務省側からの政務三役の出席を継続いただくとともに、より実質的な政策対話に加わっていただけるよう、冒頭から最後まで参加を極力お願いしたい。
- ・2012年度に引き続き、NGO・外務省双方が当協議会の趣旨を十分理解し、コーディネーションの充実、議題の継続性の確保、サブ・グループなどの活用を通じて、議論の深化および実質化が図れるようにする。
- ・地域開催の意義と効果を NGO・外務省双方が認識して引き続き充実に努めるとともに、2012年度は実現できなかった、IT などを利用した参加や中継のあり方を検討する。

以 上